



第 10 回 東京エリア Debian 勉強会 事前資料

Debian 勉強会会場係 上川純一*

2005 年 11 月 12 日

* Debian Project Official Developer

目次

1	Introduction To Debian 勉強会	2
1.1	講師紹介	2
1.2	事前課題紹介	2
2	Debian Weekly News trivia quiz	5
2.1	2005 年 44 号	5
2.2	2005 年 45 号	6
3	最近の Debian 関連のミーティング報告	8
3.1	東京エリア Debian 勉強会 9 回目報告	8
3.2	東京エリア Debian 勉強会 9.5 回目報告	8
4	Debian とステータス	10
4.1	statoverride とは?	10
4.2	歴史	10
4.3	どんな風に使われている?	10
4.4	使い方	11
4.5	一般的な用法	11
4.6	マニアックな用法	12
4.7	パッケージアップグレード	12
4.8	おわりに	12
5	Debian Weekly News 翻訳フロー	13
5.1	はじめに	13
5.2	Debian Weekly News とは	13
5.3	ファイル形式 – WML	13
5.4	翻訳作業	16
5.5	翻訳作業時の注意点	17
5.6	今後の課題	17
5.7	おまけ: 翻訳作業に有用なツール	18
6	次回	19

1 Introduction To Debian 勉強会

上川純一



今月の Debian 勉強会へようこそ．これから Debian のあやしい世界に入るといふ方も，すでにどっぷりとつかっているといふ方も，月に一回 Debian について語りませんか？

目的として下記の二つを考えています．

- メールではよみとれない，もしくはよみとってられないような情報を情報共有する場をつくる
- まとまっていない Debian を利用する際の情報をまとめて，ある程度の塊として出してみる

また，東京には Linux の勉強会はたくさんありますので，Debian に限定した勉強会にします．Linux の基本的な利用方法などが知りたい方は，他でがんばってください．Debian の勉強会ということで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりと作りながらスーパーハッカーになれるような姿を妄想しています．

Debian をこれからどうするといふ能動的な展開への土台としての空間を提供し，情報の共有をしたい，というのが目的です．今回は違うこと言ってるかもしれませんが，御容赦を．

1.1 講師紹介

- こばやしさん 毎回 DWN の翻訳をやっていただいています
- えとーさん dpkg-statoverride についてかたってもらいます
- 上川純一 宴会の幹事です．

1.2 事前課題紹介

今回の事前課題は「最近 dpkg とはこう接しています」

というタイトルで 200-800 文字程度の文章を書いてください．というものでした．その課題に対して下記の内容を提出いただきました．

1.2.1 吉田@板橋さん

Debian 辞典を購入してやっと deb のわかりやすい作り方を理解したので，dpkg-buildpackage や debuild と戯れています．dpkg -c でなぜ含まれないのか頭を悩ませ，なんとか形になったら，dpkg -i で叩き込んでいます．

その他，dpkg ~ ，apt ~ も大量にあり，コマンドがいろいろで混乱しやすいため，メモ的なシェルスクリプトを作っ
て思い出しやすい rpm 系コマンドに似せて使っています．

最近の dpkg との接し方としては，ようやく打ち解けてきたといふところです．

rpm-ql

```
#!/bin/bash
echo 'dpkg -L (パッケージ名)'
```

rpm-qa-last

```
#!/bin/bash
echo 'ls /usr/share/doc -ltr | tac'
```

rpm-e

```
#!/bin/bash
echo '完全削除'
echo 'apt-get --purge remove (Package name) '
echo '設定ファイルを残して削除'
echo 'apt-get remove (Package name) '
```

rpm-qp

```
#!/bin/bash
echo 'Search Package name '
echo 'auto-apt search (File name) '
echo 'apt-file search (File name) '
echo '日本語説明'
echo 'apt-cache show (パッケージ名)'
```

rpm-qi

```
#!/bin/bash
echo 'English '
echo 'dpkg -s (Package name) '
echo '日本語説明'
echo 'apt-cache show (パッケージ名)'
```

rpm-qpl

```
#!/bin/bash
echo 'dpkg -c (パッケージファイル名) '
```

rpm-qa

```
#!/bin/bash
echo 'dpkg -l'
```

rpm-qR

```
#!/bin/bash
echo 'apt-cache depends (package 名)'
```

rpm-ql

```
#!/bin/bash
echo 'dpkg -S (コマンド名) | grep -w 'which (コマンド名)''
echo 'dlocate (コマンド名やファイル名)'
```

1.2.2 澤田さん

dpkg とどう接しているかと言われると、

- パッケージを入れた後にどんなファイルが含まれてるか見るために-L
- パッケージを入れているかを確認するために-l
- ファイルがどのパッケージのものかを確認するために-S

ですね、-L でファイル一覧表示 気になったファイルをlvってのをよくやるので、それを統合したアプリなんてあるとうれしいのかもしれない。

1.2.3 中島 清貴さん

まったく dpkg とは接していない。こんどちゃんと使ってみようと思う。まだ今のところ、なんの必要にも迫られていないから使わなくても大丈夫のようだ。しかし自分のマシンに何が入ってるのか確認してないので、これで一括表示とかしてみたら良いのかもしれない。あと何に使えるのかよく分かってない。dpkg on Solaris というのがあるらしいので今から調べて使ってみようかと思う。それぐらいだろうか？ とりあえず最近はこれぐらいしか接していないから、あまり使うような接点がないので無理に使うしかない。

1.2.4 上川

以前は emacs でパッケージ管理ができるとよいのではないかと勘違いして apt-el というのを開発していました。しかし、全然便利じゃないのではないかと致命的なことに気づいたので、あきらめています。

最近は dpkg は検索ツールとしてしか使っていません。dpkg -c や、dpkg -L, dpkg -S をよく使います。

dpkg -lって凶悪だと思いませんか？バージョン番号とパッケージ名がしっかりわかるのが一番重要だと思うのですが、説明文を表示するために容赦なくバージョン番号を切り捨ててくれます。これは困りますね。

1.2.5 えとー

dpkg は検索ツールとして使うことが多いです。dpkg -l, dpkg -L, dpkg -S は多用しています。

他に使うのって、自作パッケージを dpkg -i で突っ込むくらいになっています。

dpkg, dpkg というけど皆さん /usr/sbin/dpkg しかあんまり興味ないかもしれませんが、dpkg-statoverride や dpkg-divert, update-alternative なんかはフロントエンド作ってみて、気にしないでも生きていけるけど知ってると便利なこともあるんだなあと思うようなものがあるんだなと思って結構興味持っています。

しかし、新 dpkg は話はいっぱいあるのだけどなかなか出てこないのちょっと寂しいですね。

1.2.6 小林儀匡

dpkg は普段は専ら検索ツールとして使っています。主に dpkg -l, dpkg -L, dpkg -S を使います。ただ、dpkg -l はパッケージ名やパッケージバージョンのカラムに入る文字数が少なく、それを超えると切られてしまうのが厄介です。おかげで、正確なパッケージ名やバージョン番号が知りたいのに分からなかったり、パイプで grep に渡して引っ掛けようとしても引っ掛からないことがよくあります。

他に dpkg-reconfigure も珠に用いますが、実はこれはパッケージとしては debconf に属するのだといま dpkg -L や dpkg -S を実行して初めて知りました。

2 Debian Weekly News trivia quiz

上川純一



ところで、Debian Weekly News (DWN) は読んでいますか？Debian 界隈でおきていることについて書いている Debian Weekly News. 毎回読んでいるといろいろと分かって来ますが、一人で読んでいても、解説が少ないので、意味がわからないところもあるかも知れません．みんなで DWN を読んでみましょう．

漫然と読むだけではおもしろくないので、DWN の記事から出題した以下の質問にこたえてみてください．後で内容は解説します．

2.1 2005 年 44 号

<http://www.debian.org/News/weekly/2005/44/> にある 11 月 1 日版です．

問題 1. Nathanael Nerode が i386 のサポートについて何を宣言したか

- A そろそろ i386CPU も世界から駆逐できたので、無くす
- B gcc が i386 サポートを復活させたので、etch では真の i386 マシンでも動くリリースが作れるかも知れない
- C i386 向けのバイナリをとうとう生成できなくなってしまったので、今後は対応はしないことになる．

問題 2. Jay Berkenbilt が libtool の依存関係からパッケージの依存関係を計算するためのスクリプトを作成したいという宣言を出した際に、問題になるだろうと指摘されたのは

- A multiarch の場合の .la ファイルが複数あるケースをどう扱うか
- B 思想的にそういうことはしてはならないことになっているので話題にあげるな
- C 自動で依存関係を解決するなんてそんな危険なことをしてはならない

問題 3. openssl の新しいバージョンがアップロードされたがその影響は

- A openssl に必要だったセキュリティ対応が取り込まれた
- B openssl がより安定したバージョンになった
- C 結果として 300 以上のパッケージをリビルドする必要がある

問題 4. berlinux では何が展示されていなかったか

- A nokia 770 で動いている Debian
- B Debian で制御している鉄道模型
- C Debian を使った炊飯器

問題 5. IETF の RFC について Simon Josefsson は何をしようとしているか

- A IETF から RFC を開放する運動を開始したい
- B RFC を利用しなくても世界がまわるようにあたらしい企画システムを提案、普及推進
- C RFC のライセンスをフリーソフトウェアに使いやすいように変更するための署名運動

問題 6. openafs-module-source の機構で問題になっているのは何か

- A インストールしても動かないため、それをごまかすための機構
- B ユーザに使い方を説明するためのマニュアルが大きすぎる
- C アップグレードする際にモジュールを自動で構築するように求める機構

問題 7. 自動テストの結果を上流に還元する方法について Daniel Jacobwitz は何を提案したか

- A パッケージのビルド中に結果を出力するようにする
- B 結果ログを上流に自動でメール送信するように設定する
- C 頑張っで手動で確認する

問題 8. Debian package で、postinst の処理がパッケージ毎に実行されてしまうために遅い場合がある。その処理を複数パッケージ分まとめて実行する方法にはなにがあるか

- A cygwin の setup.exe を利用する
- B そんな方法はない。
- C zope は apt の post-install を利用している。

問題 9. gnome メタパッケージが gnome-games に依存していることに出た苦情は

- A 政府機関ではゲームが禁止されているのでインストールされると困る。
- B gnome-games は大きすぎる
- C gnome-games はおもしろくないので、もっとおもしろいゲームを提供すべきだ。

2.2 2005 年 45 号

<http://www.debian.org/News/weekly/2005/45/> にある 11 月 8 日版です。

問題 10. Linux-Info-Tag のブースではネットワーク障害があったが、どうやって対応したか

- A ノートパソコンの電源さえあればみんなハッピーだった
- B ノートパソコンに Debian のミラーがはいっていたので、ネットワークは特に問題ではなかった。
- C 通信衛星を利用してネットワークを仮稼働させたので問題にはならなかった

問題 11. Robert Milan が発表した ging は何をするものか？

- A CDROM から起動する Debian GNU/kFreeBSD
- B CDROM から起動する Windows
- C CDROM から起動する Hurd

問題 12. 次回の debconf の開催期間はいつか

- A 2005 年 5 月 14 日から 22 日
- B 2007 年 5 月 14 日から 22 日
- C 2006 年 5 月 14 日から 22 日

問題 13. openssl を利用している GPL のプログラムを gnutls を利用するようにするには

- A 気合いで書き直す
- B openssl を使い続けるほうが利点があるので、GPL のプログラムのライセンスを変えてしまう
- C gnutls/openssl.h という互換レイヤーがあるのでそれを利用すればよい

問題 14. <http://popcon.debian.org/> のトップページで見れない情報は何か

- A 最近各アーキテクチャにおいての popcon の利用者が急激に増えている
- B popcon のバージョンがリリースされた際にインストールされている数がどう遷移するか
- C どのパッケージが一番人気があるか

3 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川純一



3.1 東京エリア Debian 勉強会 9 回目報告

前回開催した第 9 回目の勉強会の報告をします。

当日のタイムテーブルは下記でした

- 18:10- quiz
- 18:30- こたえあわせ
- 19:00- 休憩
- 19:10- たるさん
- 20:10- 上川
- 21:00- 宴会

今回は debbugs についての熱い話しを展開しました。今回の参加人数は登録者が 11 名くらいで、実際に参加したのが 9 名くらいでした。

DWN quiz に関しては、今回は小林さんが 1 問不正解で最高点数でした。

たるいしさんが apt-listbugs について説明しました。昨年の Asia Debian Mini Conf で発表した内容を説明して、実はそのころの TODO は進捗していない、ということを説明していました。osdn.debian.or.jp でミラーしているのですが、rsync もとはもともと master.debian.org だったが、同期できていないというバグ報告があって気づいて、merkel.debian.org に切替えたという話しがでていました。資料にあるグラフは 2003 年 9 月から 2004 年 10 月で今は一年たっているのです、おそらく 7000 IP アドレスからの利用があるのだろう、と予想していました。また、中国で発表したときに、使ってみたら、バグの情報を取得するのに何分もかかり、ミラーサーバ必要だ、という話になった、がいまだになにもできていないとか、RSSViewer を使えば、自分のマシンに今入っているパッケージのセキュリティー関連のバグだけを見る、ということが出来る。実は便利かもしれない、とか。メンテナンスにあきてきたのでどうせならきなおしたいなぁという宣言もでていました。

上川が、Anthony Towns が Finland の debconf で発表していた内容と、その後にその発表に触発されて実装された Debbugs の新機能について話しました。おそらく Debbugs の仕様について日本語で記述した資料はこれが初めてなのではないでしょうか。新しい機能がいろいろと実装されており、apt-listbugs でも利用できそうな情報もあるので、たるいしさんの今後のハックに期待です。

3.2 東京エリア Debian 勉強会 9.5 回目報告

大阪で実施した第 9.5 回目の勉強会の報告をします。

10 月の関西にての第 9.5 回 Debian 勉強会、関西出張版を実施しました。今回はバグレポートの仕方についての話を展開しました。今回の参加人数は 40 人くらいでした。

DWN quiz は、今回はえとーさんが司会をしてすすめました。会場の人々は意外にもあまり DWN をよんでいなかったようなので難しい問題が多かったようです。

やまねさんが reportbug のしかたについて語りました。まず、バグ報告のなんたるかを解説し、Debian はバグを適正に報告することによって改善されている、ということを説明しました。会場からは、このバグはどうだ、という

話題がでました。パッチをつけてバグ報告をするのはパッチをつけないよりはよい。後藤さんがいうには、過去の経験から、バグ報告についているパッチはそれだけでは動かない物が多いので、そのまま適用して終了という場合はすくないのだが、それなりに修正することに対してのモチベーションにつながるし、どういう方向に改変したら修正となるのかというのが明確になるので、好ましい、ということでした。例として、上川が昔バグ報告でファイルした lv の 2GB 以上のファイルが扱えないというバグ報告に関して、LARGFILE オプションでコンパイルしたらよいというパッチをつけていたのですが、後藤さん曰く、LARGFILE オプションだけではダメで、ftell の代わりに ftello を使う必要があるのです。そのために多くの変更が必要となってしまうため、上川のなげた一行のパッチの適用だけでは問題は解決できません、ということの説明してくれました。

その後、上川が、debbugs の構造について解説しました。debbugs のデータファイルの構造や、プログラムの構成についてのおおざっぱな解説をしました。会場に debbugs の利用方法をきいたところ、ダイレクトに CGI を使っている人は意外と少なく、qa.debian.org を利用しているメンテナがたくさん居ました。上川の qa.debian.org のページ <http://qa.debian.org/developer.php?login=dancer> を例にして見てみるとわかりますが、メンテナの管理しているパッケージについての全体像が簡単に把握でき、バグレポートの様子をおおまかに把握することができます。

会場の人から、この勉強会はディストリビューションのテストをしている人だけを対象にしているのですか、Debian のインストールの仕方についての話題などはないのですか、たとえば、RAID を使うのだったらこのパッチが必要だ、という話題などは無いのかときかれてしまいました。ディストリビューションのテストをしている人達を対象としているというより、現状としては参加している人の多くが Debian の開発に参加している人ですので話題が開発者よりになすこしょっています。インストールの話題については雑誌などを参照にしてやっしまえばよいだろうし、RAID などは特にパッチなどは必要無い、という回答をしました。今後要望が多いようであればインストール大会みたいなものも開催することも可能なのですが、いかがでしょうか。

最後に武藤さんが司会で PGP キーサインパーティーを開催しました。27 人が列をつくって、公開鍵と ID の確認を実施しました。その後、CACert の認証も実施しました。

宴会は近所の焼き鳥屋さん「とり蔵」で開催。おいしい鳥料理をたくさんいただきました。

4 Debian とステータス

えとー



4.1 statoverride とは？

ステータス情報を操作するインターフェースファイル、ディレクトリ、デバイスファイルなど dpkg が扱えるファイルシステムオブジェクトならなんでも扱うことができる。

4.2 歴史

dpkg-statoverride の前には dh_suidregister というのがあった。その suidregister の幾つかの問題を解決したものとなっている。2000 年のことなのですでに 5 年以上の歴史のある古いものになっているが今だ有効な仕組み。^{*1}

4.3 どんな風に使われている？

4.3.1 メンテナ編

まずは身近な postfix で用いられているメンテナスクリプトから抜粋してみましょう。

postinst

```
1 dpkg-statoverride --remove \${POSTDROP} >/dev/null 2>&1 || true
2 dpkg-statoverride --remove /var/spool/postfix/public >/dev/null 2>&1 || true
3 dpkg-statoverride --remove /usr/sbin/postqueue >/dev/null 2>&1 || true
4 dpkg-statoverride --update --add root postdrop 02555 \${POSTDROP}
5 dpkg-statoverride --update --add postfix postdrop 02710 /var/spool/postfix/public
6 dpkg-statoverride --update --add root postdrop 02555 /usr/sbin/postqueue
```

postrm

```
1 dpkg-statoverride --remove /usr/sbin/postdrop >/dev/null 2>&1 || true
2 dpkg-statoverride --remove /var/spool/postfix/public >/dev/null 2>&1 || true
3 dpkg-statoverride --remove /usr/sbin/postqueue >/dev/null 2>&1 || true
```

1. dpkg-statoverride -remove /usr/sbin/postdrop & /dev/null 2>&1 — true
/usr/sbin/postdrop の statoverride の設定を削除する
2. dpkg-statoverride -remove /var/spool/postfix/public & /dev/null 2>&1 — true
/var/spool/postfix/public の statoverride の設定を削除する
3. dpkg-statoverride -remove /usr/sbin/postqueue & /dev/null 2>&1 — true
/usr/sbin/postqueue の statoverride の設定を削除する
4. dpkg-statoverride -update -add root postdrop 02555 \\${POSTDROP}
ユーザ「root」グループ「postdrop」で実行時にグループ ID のユーザで起動、読み取りと実行をオーナーユーザ、オーナーグループ、その他に許可したものを /usr/sbin/postdrop に付与する。
5. dpkg-statoverride -update -add postfix postdrop 02710 /var/spool/postfix/public
ユーザ postfix グループ postdrop で実行時にグループ ID を指定した、オーナーユーザには読み、書き、実行を、オーナーグループには実行を、その他にはなにも出来ない権限を /var/spool/postfix/public に付与する。
6. dpkg-statoverride -update -add root postdrop 02555 /usr/sbin/postqueue
ユーザ root グループ postdrop で実行時にグループ ID を指定した、読み取りと実行をオーナーユーザ、オーナー

^{*1} 参考リンク:<http://lists.debian.org/debian-dpkg/2000/06/msg00015.html>

グループ、その他に許可したものを /usr/sbin/postqueue に付与する。

以上のように、プログラムにデフォルトのパーミッションを付与したい場合に用いることができる。

パッケージメンテナがこれを利用したほうがよいのには理由がある。

debian のポリシーマニュアルでは標準のパーミッションなどが規定されている，しかし，規定されているものでは却って不便になってしまうものがあり，ポリシーから離れてパーミッションなどを変更する場合にあとからユーザがポリシーにない状態の確認を容易にするために用いるインターフェースとして利便性のためである。

別の例を上げてみよう。

```
for i in /usr/bin/foo /usr/sbin/bar
do
    if ! dpkg-statoverride --list $i >/dev/null
    then
        dpkg-statoverride --update --add sysuser root 4755 $i
    fi
done
```

解説 — /usr/bin/foo や /usr/sbin/bar に statoverride の設定がされていなければユーザ「sysuser」，グループ「root」，パーミッション「4755」を設定する。

第二に postinst などでは chmod, chown などを使う場合でもユーザの都合でオーナーやパーミッションを変更させることがありうるが，たとえ変更したとしてもパッケージの再インストール時やアップグレード時などにパッケージ標準のオーナーとパーミッションに上書きされてしまう可能性がある．これを防ぐためにパッケージ標準のオーナー及びパーミッションを設定可能にしておくのがよいと思われる。

パーミッションをゴたゴた言う BTS を減らすためにも statoverride は活用しましょう！

4.3.2 ユーザ編

サーバ管理者などはパッケージにより提供されているオーナーやパーミッションでは目的が達成できない場合がある，アップデートの少ない stable を使ったとしてもセキュリティアップデートなどで update がなかった場合にどうしても上書きされてしまい，初期の値に戻されてしまうことになる．これを回避するためには，dpkg-statoverride を使うことによりパッケージの上書きを回避してユーザ設定のオーナーとパーミッションをアップグレードしても無関係に用いることができるようになる。

GUI 環境がある場合は dsys を使ってみてください。

4.4 使い方

4.5 一般的な用法

1. ステータスの追加

```
# dpkg-statoverride --add ユーザ名 グループ名 パーミッション ファイル名
```

2. ステータスの即時追加]

```
# dpkg-statoverride --update --add ユーザ名 グループ名 パーミッション ファイル名
```

3. ステータスの削除

```
# dpkg-statoverride --remove ファイル名
```

4. ステータスの変更

```
# dpkg-statoverride --remove ファイル名 # dpkg-statoverride --update --add ユーザ名 グループ名 パーミ  
ッション ファイル名
```

5. ステータスの確認

dpkg-statoverride -list パターン

4.6 マニアックな用法

-admindir オプションを使いホームディレクトリの . (ドット) ファイルのパーミッションを制御する .

4.7 パッケージアップグレード

1. postinst などで statoverride が使われているものを管理者などが statoverride の設定を変更した場合
postinst などで設定を -remove してから -add している場合などにはシステム管理者が statoverride を設定しても postinst などの設定に書き換えられてしまう . (postfix など)
postinst などで -add のみの場合は管理者などが設定した statoverride の設定になる
2. postinst などで statoverride をセットされているが管理者が chown , chmod などをした場合
statoverride の設定に従ってパーミッションが変更される
3. postinst などで chown や chmod しているものを管理者などが statoverride の設定を変更した場合
システム管理者が statoverride を設定してもパッケージの postinst などの chown , chmod で書き換えられてしまう .
4. postinst などでは statoverride も chown , chmod も使われていないものを statoverride の設定を行なった場合
statoverride の設定に従ってファイルのパーミッションが変更される
5. postinst などで chown や chmod しているものを管理者などが chown や chmod で設定を変更した場合
システム管理者が chown や chmod で設定してもパッケージの postinst などの chown , chmod で書き換えられてしまう .

4.8 おわりに

statoverride は alternatives と比べると単純な機能ではシンプルなものだし知名度は更に低いですが、メンテナもユーザも楽になれるツールなので是非活用していただきたいと思う .

5 Debian Weekly News 翻訳フロー

小林儀匡



5.1 はじめに

Debian Weekly News (DWN) という、Debian コミュニティのために毎週発行されるニュースレターを御存知でしょうか。Debian 通になるためには読むのが必須とされている(?) ニュースです*²。Debian JP の debian-users メーリングリスト*³を購読しているかたなら、最近では毎週のように翻訳したものが流れてくるので知っているでしょう。この DWN 翻訳作業は、以前は今井伸広さんが一人でされていましたが 2005 年 6 月ごろから DDTP*⁴日本語チームコーディネータの田村一平さん、そして小林がチームを組んでおこなっています。ここでは、その翻訳作業の流れについて説明します。

5.2 Debian Weekly News とは

DWN は Debian コミュニティのための週刊ニュースレターで、UTC で毎週火曜 18:45 ごろ (JST で毎週水曜 3:45 ごろ) に発行されます。「週刊」というだけあって基本的に毎週発行されますが、発行されないことも年に数回あります。発行形態はメーリングリストとウェブページの 2 種類あり、前者は本家の debian-news メーリングリスト*⁵で購読できます (もちろんこのメーリングリストには DWN の他に不定期のニュースも珠に流れてきます)。また後者は <http://www.debian.org/News/weekly/> で参照できます。様々なメーリングリストでの話題やイベントについて書かれているので、読んでおくと Debian 界隈のニュースに (無駄に) 詳しくなれます。

DWN の編集は最近ではほとんど Martin 'Joey' Schulze 一人の作業に委ねられています。しかしフッタに書かれる編集者情報を見る限り、2 号に 1 号くらいは他の人が助けているようです。

ちなみに創刊号は 1999 年 1 月 4 日に出され、その編集者は Joey Hess でした。記念すべき第 1 号の editorial によれば、Linux Weekly News*⁶を真似て作られたようです。また editorial の次に書かれた記事第 1 号のタイトルは 'RMS is using Debian.' です。

5.3 ファイル形式 - WML

ウェブページ版の DWN は Debian のサイトの一部なので、他のページと同じ CVS リポジトリ*⁷、そして同じ WML というファイル形式を利用しています。

ファイル形式には他のページと同様に WML が用いられています。WML とはウェブサイトメタ言語 (web site meta language) のことで、Debian では wml パッケージとして提供されています。簡単に言ってしまうと HTML に

*² もちろん、きちんとすべて頭に入れ、忘れないよう毎日読み返す、なんてことはしなくてかまわないでしょう。ただ、世界に広がる Debian コミュニティにはどんな人がいて、どんな活動をしているか、Debian がどのような人々の日常的な保守作業や議論を通して作られているかは、q ユーザとして知っておいたほうがよいように思うので、目は軽く通しておいたほうがよいと思います。あくまで私見ですが。

*³ debian-users@debian.or.jp .

*⁴ Debian Description Translation Project . Debian パッケージ説明文の翻訳をするプロジェクト .

*⁵ debian-news@lists.debian.org .

*⁶ <http://lwn.net/> .

*⁷ リポジトリ URL は `pserver:anonymous@cvs.debian.org:/cvs/webwml` で、ウェブインタフェースも <http://cvs.debian.org/?root=webwml> で利用できます。この中の webwml ディレクトリに <http://www.debian.org/> 用の wml ファイルやそれからウェブページをビルドするツールなどが含まれています。例えば DWN 2005 年第 44 号英語版は [webwml/english/News/weekly/2005/44/index.wml](http://www.debian.org/News/weekly/2005/44/index.wml) にあり、その日本語版は [webwml/japanese/News/weekly/2005/44/index.wml](http://www.debian.org/News/weekly/2005/44/index.wml) にあります。

命令を混ぜたような言語で、例えばウェブページのコンテンツに定型的なヘッダ・フッタ、さらに HTML の head を加えたりするのに用いられています。また、条件分岐を用いた、「 のリリース前にはこのコンテンツを表示し、リリース後にはこのコンテンツを表示する」というような表示の切り替えや、Debian のウェブページの翻訳版がオリジナル版のどのバージョンに基いているかを管理するのにも用いられています。WML についてより詳しく知りたければ http://www.debian.org/devel/website/using_wml を参照してください^{*8}。

5.3.1 DWN の WML

Debian Weekly News の場合だと WML の形式は決まっています。以下では (わざわざ説明する必要もない、見れば分かるものだと思いますが) DWN 2005 年第 44 号のものを例にとって説明します。

まず最初に命令が決まります。ここには、発行日時・そしてアーカイブのページに表示されるサマリ (主だった記事のキーワードのリスト) が書かれます。その後に CVS の Id が書かれています。

```
#use wml::debian::weeklynews::header PUBDATE="2005-11-01" SUMMARY="Dependencies, OpenSSL, Berlinux, RFC
# $Id$
```

その後で、‘Welcome to this year’s nth issue of DWN, the weekly newsletter for the Debian community.’ で始まる editorial が来ます。

```
<p>Welcome to this year’s 44th issue of DWN, the weekly newsletter for the
Debian community. Nathanael Nerode <a
href="http://lists.debian.org/debian-devel/2005/10/msg00388.html">reported</a>
that current GCC versions support the old i386 processor again and hence
Debian could retain i386 compatibility in the upcoming <a
href="$(HOME)/releases/etch/">etch release</a>.</p>
```

あとは普通の記事の繰り返しです。

```
<p><strong>Calculating Development Package Dependencies.</strong> Jay
Berkenbilt <a
href="http://lists.debian.org/debian-devel/2005/10/msg00184.html">\
proposed</a> to work on a <a
href="http://packages.debian.org/debhelper">debhelper</a> script that helps
calculating <a href="http://packages.debian.org/libtool">libtool</a>
dependencies for development packages. Goswin von Brederlow <a
href="http://lists.debian.org/debian-devel/2005/10/msg00519.html">pointed
out</a> that with <a href="http://raw.no/debian/amd64-multiarch-2">\
multiarch</a> there may be concurrent <code>.la</code> files to handle. No
consensus in favour of such a script was reached. Junichi Uekawa (&#19978;&#24029;&#32020;&#19968;)
<a
href="http://lists.debian.org/debian-devel/2005/10/msg00316.html">\
mentioned</a> the <a href="http://packages.debian.org/d-shlibs">d-shlibs</a>
package that contains scripts to support the maintainer in this regard.</p>
```

以上が DWN の記事部分です。

記事部分のあとには、箇条書で書けるような様々な情報のコーナーが続きます。主に前号の発行以降に変化があったパッケージについての情報で、最近載っているのは

^{*8} ちなみに筆者は、WML が Debian 以外にどこで使われているか知りません

‘Security Updates.’ (「セキュリティ上の更新」) DSA 番号・パッケージ名・脆弱性についての記述) のリスト。
‘New or Noteworthy Packages.’ (「新規または注目すべきパッケージ」) パッケージ名・パッケージ説明文のリスト。
‘Orphaned Packages.’ (「みなしご化されたパッケージ」) パッケージ名・パッケージ説明文・debbugs のバグ番号
のリスト。
‘Removed Packages.’ (「削除されたパッケージ」) パッケージ名・パッケージ説明文・パッケージ削除理由のリスト。

の 4 コーナーですが、このうち「削除されたパッケージ」は比較的新しい項目です。去年は、Debian Package a Day’s Journal^{*9}で紹介されたパッケージのリストを含む ‘Debian Packages introduced last Week. Ever’ (「先週紹介された Debian パッケージ」) というコーナーがあったのですが、これは、ウェブページが更新されなくなった(さすがにネタが尽きた?) ために廃止されたようです。以下にコーナーの例を示します。

<p>Security Updates. You know the drill. Please make sure that you update your systems if you have any of these packages installed.</p>

DSA 872: koffice --
Arbitrary code execution.

DSA 873: net-snmp --
Denial of service.

DSA 874: lynx --
Arbitrary code execution.

DSA 875: openssl094 --
Cryptographic weakness.

DSA 876: lynx-ssl --
Arbitrary code execution.

DSA 877: gnump3d --
Several vulnerabilities.

DSA 878: netpbm-free --
Arbitrary code execution.

最後に定型メッセージが入ります。

<p>Want to continue reading DWN? Please help us create this newsletter. We still need more volunteer writers who watch the Debian community and report about what is going on. Please see the contributing page to find out how to help. We’re looking forward to receiving your mail at dwn@debian.org.</p>

そしてフッタ用の WML 命令が入ります。編集者の名前を書くのに使われます。

#use wml::debian::weeklynews::footer editor="Martin 'Joey' Schulze"

^{*9} <http://www.livejournal.com/users/debaday/> .

5.4 翻訳作業

翻訳作業はだいたい以下のような流れになっています。

週末 Martin ‘Joey’ Schulze がプライベートな草稿^{*10}に記事を追加する。

水曜未明 オリジナル版がリリースされる。

水曜 今井さんが翻訳チームの田村さん・小林に作業を割り振る。

水曜～日曜 翻訳チームメンバーの3人が個々に翻訳し、Debian JP の debian-www メーリングリスト^{*11}にそれを投稿して査読をお願いする。それに対して杉山さん・武井さんなどが査読をしてくださる。

月曜～火曜 (基本的に今井さんが) debian-users に日本語版をリリースする。

5.4.1 Martin ‘Joey’ Schulze のオリジナル版リリース作業

Martin ‘Joey’ Schulze は、オリジナル版をリリースするために独自のリポジトリ^{*12}を用いています。彼はそれに記事を追加していき、UTC で月曜日の夕方に、「ごく親しい関係者」向けに DWN のプレビューをリリースします。彼はこのプレビューを dwn@debian.org に送り、DWN チームのレビューを受けます。またプレビューは、早目に翻訳にとりかかりたい人のために dwn-trans@debian.org にも送られます。こうして、いくつかの言語ではオリジナル版の正式なリリースと同時に翻訳版をリリースすることができるようになっています。日本語版は現在、正式リリースを待って作業を開始しています。

5.4.2 割り振り

翻訳チームメンバー 3 人への作業の割り振りは基本的に今井さんが行います。チーム制を始めたばかりのころは「記事部分前半」・「記事部分後半」・「それ以外 (様々なコーナー)」という分け方をしていました。しかし、記事というのは流れがあるので訳していてそれなりに楽しいのですが、「それ以外 (様々なコーナー)」は、脆弱性・パッケージ削除理由といった定型文句が多数を占めるものがある一方で、流れがなくて訳しづらいパッケージ説明文もあります。(どちらにしろローテーション制なのですが) それだとやりがいに差が出るためか^{*13}、最近では「記事部分の 1/3 とどれかのコーナー」という分け方になっているようです。

5.4.3 翻訳・査読依頼

翻訳作業は、CVS リポジトリからオリジナル版の DWN の wml ファイルをコピーして始めます。このときファイルのコピーには、同じリポジトリに入っている webwml/copypage.pl を用います。というのも、この Perl スクリプトはコピー元のオリジナル版 wml ファイルに含まれる CVS の Id キーワードの値から翻訳バージョンチェック用の WML 命令を作り出してくれるからです。またこのスクリプトは、オリジナル版 wml ファイルに含まれている Latin-1 文字コードの文字を適切な文字実体参照に置き換え、ASCII だけを含むファイルにしてくれます。ウェブインタフェースを使ったダウンロードや、cp コマンドによる生のコピーでは、それらがおこなわれません。

実際の翻訳作業では、査読のしやすさを考えて、オリジナルの記事・リスト項目を残し、その後ろに翻訳をつけていきます。「この文の意味がよく分からない」「この単語はこう解釈した」といったメモを査読者に残したい場合は、「#」でコメントアウトしたものをオリジナルと翻訳の間に挟んで残します。

5.4.4 日本語版リリース作業

リリース作業は次のような手順でおこないます。

^{*10} <http://www.infodrom.org/~joey/Writing/DWN/> .

^{*11} debian-www@debian.or.jp .

^{*12} `pserver:anonymous@cvs.infodrom.org:/var/cvs/infodrom.org/public_html/src/Writing/DWN` .

^{*13} 本当の理由は知らないのですが、もしかしたら違うかもしれません。

1. Debian JP debian-www メーリングリストに送られた 3 人の翻訳を wml ファイルにマージする。
2. 査読をしてくださった方々のコメントを反映させる修正をおこなう。
3. w3m で表示させ、査読でも指摘されずに残った明らかなミスがないか、自分の目で簡単にチェックする。
4. w3m の表示を見ながら、全角文字同士や全角文字と ASCII の間に不必要な空白ができていないか、または ASCII の周りに空白がきちんとあるかを調べ、必要に応じて改行位置やタグの位置を変える。詳しくは 5.5 を参照のこと。
5. 最下行にあるフッタ用 WML 命令に、editor フィールドとは別に translator フィールドをつけることができるので、そこに翻訳者の名前を連ねる。
6. 査読しやすいように残してあったオリジナルの記事・リスト項目と翻訳時のメモを消す（これでウェブ用翻訳版 wml ファイルは完成となる）。
7. 今井さんの Ruby スクリプトで、wml ファイルを Debian JP debian-users メーリングリスト投稿用プレインテキストに変換する。
8. ö などの文字実体参照を w3m などの出力に合わせて変換する。
9. Emacs の auto-fill-mode を利用して適当なところで改行する。ただし、リンクの代わりとなる URL リスト内の項目番号を示す「[1]」のような文字列の前で改行されてしまった場合は、それを手動で前の行末に戻す。
10. 以前の debian-users への投稿を元に体裁を整える。
11. コメントを加える。大変な査読作業をしてくださった方々への謝辞を忘れないようにする。
12. 完成した投稿用プレインテキストを debian-users に送信する。
13. 最後にウェブ用翻訳版 wml ファイルを debian-www に送信し、コミットをお願いする（もちろん、コミット権のある今井さんが作業者の場合は直接コミットとなる）。

5.5 翻訳作業時の注意点

翻訳作業時には以下のような点に注意を払います。

- ウェブページの見栄えを意識して、ASCII と全角文字の間には空白を入れる。
- 変なところで改行すると、テキストブラウザで見たときに全角文字どうしの間に空白が入ってしまうことがある。それを防ぐため改行位置には注意を払い、たとえば次のような方法をとる。
 - 見かけに反映されることのない、タグの内側での改行を多用する。
 - 特にタグ直後の改行には注意する。
 - 結果的にスペースを伴うような改行がどうしても必要なときは、行末に\を入れる。
- 改行位置に自信がないときは w3m で見てみる^{*14}。

5.6 今後の課題

今後の課題としては以下のようなものがあるでしょう。中には DWN の翻訳に留まらず他の翻訳にも関係するものもあります。

定型文句の翻訳の自動化 定型文句を翻訳するときには、訳語や表現形式を合わせるために、その文句が使われている過去の翻訳を探して copy and paste するという作業が必要になります。この作業は、オリジナル版と翻訳版を行き来して該当部分を探し出さなければならないので、案外面倒なものです。対訳をデータベース化し、そのデータを用いて翻訳できる部分は作業前に予め機械的に翻訳できるようにしておくと、もう少し効率よく作業を進められる気がします。

対訳表の保守 Debian JP に対訳表^{*15}があるのですが、現在は更新されていません。APT 関連、Debian プロジェ

^{*14} -T text/html とオプションを指定すれば、wml ファイルを HTML ファイルとして見ることができます。

^{*15} HTML 版が http://www.debian.or.jp/Documents/trans_table/trans_table.html にあり、dict 形式のものも <http://www.>

クト関連，あるいはその他の Debian でよく使われる用語の対訳表^{*16}を整備できたらと思います．新規に翻訳作業に携わりたい人にとって，対訳が簡単に調べられることはかなり重要でしょう．

5.7 おまけ: 翻訳作業に有用なツール

小林が翻訳作業によく用いているのは，英辞郎^{*17}，NDTPD^{*18}，Lookup^{*19}の組み合わせです．英辞郎のデータを FreePWING^{*20}で変換して得られたデータに，Emacs 上のクライアント Lookup からサーバ NDTPD を経由してアクセスします．

また，文書の変更を管理するのに，バージョン管理システムとして Subversion^{*21}を利用しています．差分を unified diff で表示しても分かりにくいときは，DocDiff^{*22}で表示させると分かりやすくなることがあります．

debian.or.jp/devel/doc/about-trans-table.html で手に入ります．

^{*16} 翻訳者を煩わせるサードパーティのアプリケーション名の表記に関するポリシーも一緒に含まれていたらよいと思います．

^{*17} <http://www.eijiro.jp/> .

^{*18} <http://www.sra.co.jp/people/m-kasahr/ndtpd/> . Debian パッケージは <http://packages.debian.org/ndtpd> .

^{*19} <http://openlab.ring.gr.jp/lookup/> . Debian パッケージは <http://packages.debian.org/lookup-el> .

^{*20} <http://www.sra.co.jp/people/m-kasahr/freepwing/> . Debian パッケージは <http://packages.debian.org/freepwing> .

^{*21} <http://subversion.tigris.org/> . Debian パッケージは <http://packages.debian.org/subversion> .

^{*22} <http://www.kt.rim.or.jp/~hisashim/docdiff/> . Debian パッケージは <http://packages.debian.org/docdiff> .

6 次回



東京での次回は 12 月 10 日土曜日の夜を予定しています．内容は本日決定予定です．
参加者募集はまた後程．



Debian 勉強会資料

2005 年 11 月 12 日 初版第 1 刷発行
東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）
